

科目名	キリスト教学 I		科目ナンバリング	L-GECHO-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G51000		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教主義学校に学ぶ者として、キリスト教の基本的知識と宗教全般についての必要な知識を得ることを第一の目的とする。本講義を通し、自分自身のあり方やこの社会について考察し、自らの視野と価値観を広げることを目指したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. キリスト教のみならず宗教全般に関しての必要な基本的知識を得る。</p> <p>2. キリスト教的なアプローチという視座を得る。</p> <p>3. 聖書が語るメッセージから自分自身やこの社会について考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	基礎知識		キリスト教、聖書、宗教について(カルト含む)							
第2回	弘前学院の歴史		弘前学院の創立とその歩み、キリスト教主義学校とは							
第3回	キリスト教史		キリスト教の歴史概説、ユダヤ教・イスラームとの関係性							
第4回	文学とキリスト教		聖書と文学、文学部で学ぶ者としてあるべき姿							
第5回	旧約聖書概説		旧約聖書の成立、ユダヤ教との関係、39巻のダイジェスト説明							
第6回	旧約聖書を読んでもみる (1)		創世記が伝えるもの						ディスカッション	
第7回	旧約聖書を読んでもみる (2)		出エジプト記とモーセの歩み						ディスカッション	
第8回	旧約聖書を読んでもみる (3)		イスラエルの歴史、サムエル記と列王記を中心に							
第9回	旧約聖書を読んでもみる (4)		預言書、知恵文学、諸書							
第10回	新約聖書概論		新約聖書の成立、27巻のダイジェスト解説							
第11回	新約聖書を読んでもみる (1)		イエス誕生物語、クリスマスの意味						ディスカッション	
第12回	新約聖書を読んでもみる (2)		イエスの語るたとえ話、奇跡物語						ディスカッション	
第13回	新約聖書を読んでもみる (3)		イエスの死と復活、何故十字架なのか						ディスカッション	
第14回	新約聖書を読んでもみる (4)		パウロ書簡とパウロの働き、初代教会の成立							
第15回	まとめとふりかえり		今後の課題、講義のまとめ、ふりかえり							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験50%、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席とその感想文20%で評価する。</p> <p>期末試験は講義中でふれたポイントが理解できているかどうかを問う問題を出題。</p>									
課題 等	講義時に指示する。特別礼拝の感想文を書いてもらう予定。									
事前 事後 学修	講義時に指示した聖書テキストを事前学習として丁寧に読んでくること。事後学習として読むべき資料を提示した場合は必ず読むこと。									
教材 教科書 参考書	『聖書 新共同訳』ISBNは色々ある。新共同訳の新約聖書、旧約聖書両方が入っていればどのサイズでも良い(入学時購入者は新共同訳である)。 ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。毎回プリントを配布する。									
留意 点	場合によっては一回程度オンデマンド講義を行う場合もある。 木曜日10:20からの礼拝に参加すること。 本講義及び礼拝、また本学のキリスト教教育は信仰を強制するものではない。									

科目名	キリスト教学Ⅱ		科目ナンバリング	L-GECHO-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	G51001		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>現代を生きるわたしたちが、どのように他者と共存し高め合い生きていけば良いのかを考えてみたい。自己と他者の望ましいあり方、またこの社会についてキリスト教的な観点から考察する。旧約聖書の創世記と新約聖書の福音書を主なテキストとして用いる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教という視点や価値観から自分と他者のあり方を考えてみる。</p> <p>2. 聖書の物語を通し、神と人間との関係の中に示される様々な出来事を読み取り、そこから学ぶべきものを考える。</p> <p>3. この社会において弱くされている人や虐げられている人々に対しての自分のなすべきことは何か考える。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	方法論			基礎知識の確認、どのようなことを目指すのかの説明						
第2回	創世記から考える (1)			イスラエルの苦難の歴史 (天地創造 創世記1:1~2:4)						
第3回	創世記から考える (2)			アダムとエバの失敗と新しい可能性 (楽園喪失 創世記2:4~3:24)				ディスカッション		
第4回	創世記から考える (3)			人類最初の殺人事件 (カインとアベル 創世記4:1~26)				ディスカッション		
第5回	創世記から考える (4)			言葉の可能性 (バベルの塔 創世記11:1~9)				ディスカッション		
第6回	創世記から考える (5)			アブラハムの旅立ち (アブラハム物語 創世記12:1~25:26)						
第7回	福音書から考える (1)			クリスマスの出来事が伝えるもの (イエス誕生物語 マタイ1:18~2:23 ルカ2:1~20)				ディスカッション		
第8回	福音書から考える (2)			自立と自律 (放蕩息子のたとえ ルカ15:11~32 99匹と1匹の羊 ルカ15:1~7)				ディスカッション		
第9回	福音書から考える (3)			イエスの考えた社会福祉 (ぶどう園の労働者のたとえ マタイ20:1~16)				ディスカッション		
第10回	福音書から考える (4)			やらないは通用しない (タラントンのたとえ マタイ25:14~30)				ディスカッション		
第11回	福音書から考える (5)			差別をこえた働きかけ (徴税人ザアカイ ルカ19:1~10)				ディスカッション		
第12回	福音書から考える (6)			愛は無条件に (敵を愛する ルカ6:27~36 善いサマリア人 ルカ10:25~37)				ディスカッション		
第13回	福音書から考える (7)			病といやし (ベトザタの池 ヨハネ5:1~18 中風の人のいやし マルコ2:1~12)				ディスカッション		
第14回	福音書から考える (8)			「因果応報」ではない考え方 (盲人をいやす ヨハネ9:1~12)						
第15回	まとめとふりかえり			今後の課題、講義のまとめ、ふりかえり						
評価方法及び評価基準	<p>原則としてレポート50% (2回)、講義への出席と参加30%、木曜日の礼拝出席20%で評価する。</p> <p>レポートは創世記から1回、福音書から1回。A4サイズ1枚程度。記述の適切さ、自分の考えや意見がきちんと述べられているかを判断する。2回提出されない場合は不合格点となる。</p>									
課題等	講義時に指示。									
事前事後学修	講義前に聖書テキストを読んでおくことは必須。									
教材教科書参考書	『聖書 新共同訳』ISBNは色々ある。新共同訳の新約聖書、旧約聖書両方が入っていればどのサイズでも良い。ノートとプリントをとじるファイルを各自用意すること。基本的に毎回プリントを配布する予定。									
留意点	木曜日10:20からの礼拝に参加すること。これにより欠席の多い者やレポートに自信のない者を救済する場合がある。									

科目名	キリスト教文化		科目ナンバリング	L-GECHO-03. UN	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			科目コード	G51003	時間	30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	坂井任、石垣雅子、井上諭一、井上裕太、顧偉良、今村かほる、奥野武志、鎌田学、川浪亜弥子、志喜屋カローリナ、エドワード・フォーサイス、スティーブン・マックウィニー、畠山篤			授業形態	講義	オムニバス	
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>キリスト教は宗教として信仰されてきただけでなく、文化的にも大きな影響を与えている。その範囲は広範で、思想・倫理・文学・芸術・建築・制度・法律・習慣・言葉・歴史など枚挙に暇がない。キリスト教が生み出した文化は、信者であるか否かに関わらず、人類の大きな遺産であるといえる。この授業では、様々な専門分野の視点から、文化をキリスト教という側面から考えてみる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達目標	キリスト教が日本および世界の文化に多種多様な影響を与えていることを理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	神の存在証明をしてみよう		西洋では、神学者たちが神が存在することを証明しようと長年苦心してきました。その努力の一端を覗いてみて、もし自分だったらどのように証明するか考えてみましょう。					10/1：鎌田学 資料はコピーにて配布		
第2回	キリシタン資料と日本語		室町、安土・桃山時代、日本宣教のためにイエズス会宣教師がキリスト教を伝え、教義書のほか、文学・語学資料が「キリシタン資料」として残されましたが、これによってキリスト教文化の受容と摂取の状況を把握します。					10/8：今村かほる		
第3回	弘前学院外人宣教師館見学		弘前学院外人宣教師館を見学し、重要文化財としての歴史的価値について学ぶ。					10/15：井上裕太		
第4回	イギリスにおける宗教改革		シェイクスピアが活躍した時代におけるイギリスでのキリスト教信仰 キリスト教信仰とシェイクスピア作品の関係					10/22：川浪亜弥子		
第5回	ハロウィーンの歴史		キリスト教会の歴史から現在のハロウィーンがどうやって進化を遂げたかについて話す。グループワークでディスカッションします。ICTを使って内容を評価しますので、履修者がスマートフォンをお持ちください。					10/29：エドワード・フォーサイス		
第6回	キリスト教と現代小説（附、サブカルチャー）		20世紀後半から21世紀にかけて活動した小説家のうち、キリスト教の影響の強いと思われる人の仕事を読んでみます。具体的には飯田寛夫と庄野潤三の二人を中心としますが、他の作家にも触れます。なお、十分な時間は取れませんが、マンガなどのサブカルチャー領域におけるキリスト教の影響についても、概説します。					11/5：井上諭一 資料はコピーで配布します。		
第7回	クリスチャン文化と聖書言語		趣味として言語を学ぶ人、就職のために言語を学ぶ人が多い中で、ヘブライ語やギリシャ語を学ぶクリスチャンを招き、彼らがなぜ言語を学ぶのかについて理解することを目的とし、聖書の起源を学ぶ。※ライトニングトークや対談を交えた形式で行う。					11/12：志喜屋カローリナ		
第8回	キリストと安寿姫		津軽のイタコ（女性シャマン）の語る「お岩木山一代記」は、太陽神とその神の妻が神の娘を産み、その神の子が岩木山の神になり、悩める人々を救う話である。何とキリストの誕生と行為に似ていることが。					11/19：畠山篤		
第9回								11/26：畠山篤		
第10回	聖書・キリスト教とことわざ		現代を生きる私たちにとって、当たり前のように使用していることわざや慣用語について、聖書やキリスト教に原点を持つものについて学ぶ。小テスト実施。					12/3：石垣雅子		
第11回	日本キリスト教小史		日本に伝えられたキリスト教はどのように広まり、どんな道のりをたどったのでしょうか。イエズス会の宣教から明治期の宣教師たち、そして現代まで、その歴史を学んでみましょう。					12/10：石垣雅子		
第12回	クリスマスの由来		ヨーロッパの異教の祭典が、現在のキリスト教の祭典にどのように変化していったか、について話す					12/17：スティーブン・マックウィニー		
第13回	信仰と学校行事		いわゆる戦前の学校教育において、教育勅語の奉読は学校行事の中心に位置していました。その教育勅語発布直後に起きた内村鑑三不敬事件（1891年）を題材に信仰と学校行事の問題について考えます。					1/7：奥野武志		
第14回	太宰治の欲動する身体		『人間失格』をめぐる死に至る太宰治の病を考える					1/14：顧偉良 プリント配布		
第15回	弘前学院の歴史		皆さんの母校となる弘前学院は、キリスト教主義を建学理念に掲げ、130年を超える歴史を刻んできました。その歩みを追います。					1/21：坂井任		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。各担当者より小課題その他の方法によって、担当回分の評価を行う。									
課題等	授業内で課題やレポートが指示された場合は、期限内に提出すること。提出された課題・レポート等は適宜返却する。									
事前事後学修	学生便覧の「弘前学院の沿革と使命」の項を読んでおくこと。 各教員の指示に従って復習し、各自講義の内容を問い直しておくこと。2回続きの授業の場合は教員の指示に従い次回の予習をする。									
教材教科書参考書	各担当者により、必要に応じてプリント等資料配布									
留意点	担当者・担当順は変更になることがある。									

科目名	聖書と文学		科目ナンバリング	L-GECHO-04. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	石垣 雅子			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>栗林輝夫『日本民話の神学』をテキストにして、日本の民話とキリスト教・神学との関わりを考察する。講読形式で行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1・2・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・2・7に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. キリスト教神学という視座、聖書との関連から日本の民話を考える。</p> <p>2. 伝統的な解釈にとられない新しい聖書の読み方を学ぶ。</p>									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
第1回	はじめに		『日本民話の神学』の概要説明、講義の仕方の説明、心構え							
第2回	『日本民話の神学』を読む(1)		序章：民話の世界を漂流する					講読・発表・討論		
第3回	『日本民話の神学』を読む(2)		第一章：五分一の「失樂園」その1					講読・発表・討論		
第4回	『日本民話の神学』を読む(3)		第一章：五分一の「失樂園」その2					講読・発表・討論		
第5回	『日本民話の神学』を読む(4)		第一章：五分一の「失樂園」その3					講読・発表・討論		
第6回	『日本民話の神学』を読む(5)		第二章：異界にワープしたお遍路の女 その1					講読・発表・討論		
第7回	『日本民話の神学』を読む(6)		第二章：異界にワープしたお遍路の女 その2					講読・発表・討論		
第8回	『日本民話の神学』を読む(7)		第三章：炭焼き五郎兵衛の錬金術 その1					講読・発表・討論		
第9回	『日本民話の神学』を読む(8)		第三章：炭焼き五郎兵衛の錬金術 その2					講読・発表・討論		
第10回	『日本民話の神学』を読む(9)		ここまでのまとめと振り返り					レポート提出		
第11回	『日本民話の神学』を読む(10)		第四章：ちきりの女とホロコーストの娘 その1					講読・発表・討論		
第12回	『日本民話の神学』を読む(11)		第四章：ちきりの女とホロコーストの娘 その2					講読・発表・討論		
第13回	『日本民話の神学』を読む(12)		第五章：意外な知らせ・実は桃太郎は女だった その1					講読・発表・討論		
第14回	『日本民話の神学』を読む(13)		第五章：意外な知らせ・実は桃太郎は女だった その2					講読・発表・討論		
第15回	『日本民話の神学』を読む(14)		読み終えてのまとめと振り返り					レポート提出		
評価 方法 及び 評価 基準	講義への出席と参加、発表、討論を60%、レポート40%で評価する。									
課題 等	与えられた箇所を必ず読み、下調べをした上で参加。									
事前 事後 学修	講読形式のため、予習復習は必須。割り当て発表形式ではない。全員が読んでくること。									
教材 教科書 参考書	テキスト 栗林輝夫 『日本民話の神学』 ISBN-978-8184-0290-4 日本キリスト教団出版局 2500円＋税 及び『聖書 新共同訳』（各自が持っているもので良い）									
留意 点	初回からテキストを持参。 テキスト自体は決して難解ではないが、毎回時間をかけて読んでくる必要がある。 予習無しでの参加は全く理解できないと思われる。熱意を持って取り組めない者にはお勧めできない。									

科目名	哲学と倫理A		科目ナンバリング	L-GEHU0-00.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって漫画、アニメ、映画も利用する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。④映像を読み解く力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス			「ここは今から倫理です。」						
第2回	「嘘も方便」は正しいか？			カントの倫理学説（義務論）について				課題解決型学修		
第3回	サバイバル・ロッターリー			生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？				課題解決型学修		
第4回	「最大多数の最大幸福」			個人と社会のあり方を考える				課題解決型学修		
第5回	功利主義の基礎			功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる				課題解決型学修		
第6回	幸福の計算			幸福とは何か、幸福へ至る道とは？				課題解決型学修		
第7回	人格概念			人格概念を検討する				課題解決型学修		
第8回	事実判断と価値判断			「である」と「べきである」の関係性について				課題解決型学修		
第9回	カントの定言命法			カントの倫理学説再説				課題解決型学修		
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？			道徳の原則とは何か？				課題解決型学修		
第11回	囚人のジレンマ			囚人にとって一番利益になる行為とは？				課題解決型学修		
第12回	施しは義務か？			貧者を援助しなければならないことの根拠				課題解決型学修		
第13回	正義は時代によって変わるか？			「格差」問題を考える				課題解決型学修		
第14回	科学は価値中立的か？			科学技術の光と闇				課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	哲学と倫理B		科目ナンバリング	L-GEHU0-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52001		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 トマス・モア(1477-1535)の『ユートピア』を精読し、理想と現実の社会について考える。本書は「ユートピア文学」という一文学ジャンルの名称元となっているだけあって、後世への影響力は計り知れない。明治初期に紹介された当時の日本の社会状況もあわせて考えたい。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	文章を正確に読み込んで、自分なりに解釈できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	ラファエル・ヒュトロダエウスの話の第一巻概要			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第3回	ラファエル・ヒュトロダエウスの話の第二巻概要			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第4回	ユートピアの地勢について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第5回	都市について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第6回	役職について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第7回	職業について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第8回	相互のつきあいについて			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第9回	ユートピア人の旅行について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第10回	奴隷について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第11回	軍事について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第12回	ユートピア人のいろいろな宗教について			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第13回	ユートピアにかんする詩と書簡			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第14回	ユートピアにかんする詩と書簡②			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第15回	まとめ			授業全体のまとめ				プレゼンテーション &ディスカッション		
評価方法及び評価基準	各種課題（50％）と期末試験（50％）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『改版 ユートピア』（トマス・モア著、沢田昭夫訳、中公文庫990円、ISBN978-4122019911）									
留意点	履修者は分量のある文章を毎週読み込んで、予習してくること。									

科目名	法と社会A (日本国憲法を含む)		科目ナンバリング	L-GEHU0-02. SKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52002		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 日本国憲法Aおよび日本国憲法Bを通じて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。日本国憲法Aにおいては、まず、民主主義の統治の基本原則を学び、その後、統治の機構としての「国民」やその代表者で構成される「国会」について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	日本国憲法が、近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、そもそも基本的人権を保障するための仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものとするを旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	統治の基本原則①			民主主義						
第2回	統治の基本原則②			「主権」概念の形成と展開						
第3回	統治の基本原則③			国民主権					ディスカッション	
第4回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の要件						
第5回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の位置づけ						
第6回	統治の機構Ⅰ：「国民」			「国民」の権能					ディスカッション	
第7回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国権の最高機関						
第8回	統治の機構Ⅱ：「国会」			唯一の立法機関						
第9回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会の構成						
第10回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会の権能						
第11回	統治の機構Ⅱ：「国会」			議院の権能						
第12回	統治の機構Ⅱ：「国会」			議員の地位と特権						
第13回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会と内閣の関係						
第14回	統治の機構Ⅱ：「国会」			国会と裁判所の関係					ディスカッション	
第15回	総括			まとめと振り返り					反転学習	
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う筆記試験のみで評価します。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許します。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行います。</p>									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	法と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52003		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 日本国憲法Aに引き続いて、日本国憲法が規定する統治機構に関する体系的な理解を形成する。具体的には、内閣、裁判所、地方自治の順で、日本国憲法が規定する統治機構を学んだ後、統治に関する諸問題をととして、憲法保障などもとりあげる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>「日本国憲法A」と同様に、日本国憲法が近代以降の立憲政治の到達点であることをしっかりと理解し、基本的人権を保障する仕組みとしての統治機構に関する深い知識を自己のものにすることを旨とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			行政権とその帰属						
第2回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			内閣の組織						
第3回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			内閣の権能						
第4回	統治の機構Ⅲ：「内閣」			大臣の権能				ディスカッション		
第5回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			司法権とその帰属						
第6回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			司法権の範囲と限界						
第7回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			裁判所の種類と構成						
第8回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			裁判所の権能						
第9回	統治の機構Ⅳ：「裁判所」			違憲審査制度				ディスカッション		
第10回	統治の機構Ⅴ：「地方自治」			地方自治制度						
第11回	統治の機構Ⅴ：「地方自治」			条例制定権の範囲と限界				ディスカッション		
第12回	統治に関する諸問題①			憲法保障				ディスカッション		
第13回	統治に関する諸問題②			緊急事態				ディスカッション		
第14回	統治に関する諸問題③			地方分権				ディスカッション		
第15回	総括			まとめと振り返り				反転学習		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う筆記試験のみで評価します。試験の形式はいわゆる論文式とし、解答に際しては、資料の参照を許します。他方で、評価に関しては、何よりも、出題の意図がしっかりと捉えられているか否か、そのうえで、基本的な概念や論理が適切に理解されているか否か、また、場合によっては、基礎的な概念等を現実の事例の解明に適切に応用できているか否かというように、総じて、論理性を重視した評価を行います。</p>									
課題等	特に指定しない。									
事前事後学修	参考文献等を地道に参照すること。憲法等の条文をきちんと参照すること。目安：毎週3時間									
教材教科書参考書	特に指定しない。プリントを適宜配付する。									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるように、準備しておくこと。									

科目名	政治学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>今日、社会全体がどちらかと言えば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこでこの講義のねらいは政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講生に理解・意識してもらうことにあります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	<p>・3点の理解を求めます。</p> <p>①なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのでしょうか。</p> <p>②なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのでしょうか。</p> <p>③江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのでしょうか。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について		さらに、出欠や感想文とレポートの違いについて説明を行います。							
第2回	政治とは何か		非常に広い意味の概念だが、できる限りわかりやすく説明し、理解していただきます。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第3回	権力とは何か・権威とは何か		M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力について解説し、理解。					同上		
第4回	弘前市議会議員を5名呼び、市政への関心を学生に高めてもらう。		次回第5回の初めの30分でワークショップを開催し、記録を取る。					同上		
第5回	マスメディアと政治		民主主義体制における政治家とマスメディアには基本的に価値観のタイルがあることを理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第6回	民主主義		民主主義体制の長所と短所、民主主義体制以外の独裁体制についての理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化		集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校では、制度に集団主義文化が採用されています。日米の文化が政治に影響を与えていることを理解。					同上		
第8回	18歳選挙権と参政権		日本国憲法第16条には請願権が上げられているが、これは議会や行政に対して一定の手続きはあるものの、国籍や年齢に関わりなく、意見を述べることができることの理解。					同上		
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）		国際政治における兼六・条約・国際連合の関係を理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第10回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（1）		現在も武力衝突が続いている2勢力の歴史についての理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第11回	パレスチナ・イスラエルの問題の歴史（2）		2勢力の歴史的背景の理解。					同上		
第12回	官僚制理論（1）		官僚制理論の基礎的理解。M. ウェーバーの推定した組織化された社会の進行は今も続きます。その長所と短所について考察。					同上		
第13回	官僚制理論（2）		同上。					学生の疑問や意見に答える。		
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化		戦後我が国は、垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化にかわりつつあるといます。双方の長所と短所について考察。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第15回	制度と慣習		M. ウェーバーの制度と文化の絡みの分析の理解。					学生の疑問や意見に答える。		
評価 方法 及び 評価 基準	グループワーク（30%）と試験（70%）。									
課題 等	できれば、新聞で、そうでなければ、テレビ・パソコン・スマホで政治に関する気になる記事を見たり、読んだりして下さい。									
事前 事後 学修	講義の前日は前述したことを必ず行って下さい。									
教材 教科書 参考書	・教科書：橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705									
留意点	なし									

科目名	政治学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52015		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば、応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には、長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているのである。私たちが努力する方向性をさぐるために、さらに学んでいきたい。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	政治には、未知な部分が多い。それゆえ、未来を切り開く自分自身にああでもないこうでもないかと常に問いかける自分自身を形成していった欲しい。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	本講義・展開方法・試験等について		出欠の取り方や感想文とレポートの違いについて理解。							
第2回	黒人差別の歴史的経過		米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの経過を概説し、理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）		1950年代から1960年代までの公民権運動の動画の鑑賞。					同上		
第4回	公民権運動の動画鑑賞（2）		同上の鑑賞と残りの45分でワークショップ。					同上		
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質		リーダーは、リーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長する。良き方向か、悪しき方向か、このことを周囲の間は常に配慮する必要があることを理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第6回	銀内閣制・大統領制とリーダーシップ		議院内閣制と大統領制のリーダーシップの関係の理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第7回	圧力団体・公益法人・NPO		圧力団体・公益法人・NPOを学び、調書・短所を理解。					同上		
第8回	文民統制・自衛隊・集団安全保障		民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、そして自衛権と国連の集団安全保障概念の理解。					同上		
第9回	日本の政策過程		日本の政策過程について、1955年以来形成されてきたパターンの理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第10回	NGOとNPOのミッション		(NGOを含む) NPOの企業や行政と異なる点は何か。また、そのミッションとは何か。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第11回	NPOの機能と構造のパターン		NPOの機能と構造のパターンからその長所と短所を理解。					同上		
第12回	ドイツの元首相メルケル		ドイツの元首相メルケルについて、その生い立ちから首相における業績の理解。					同上		
第13回	ウクライナへのロシアの武力攻撃		2022年2月24日ロシアはウクライナに侵攻し、戦争を始めた。これまでの状況の理解。					学生の疑問や意見に答える。		
第14回	欧州における性労働者の権利		欧州における性労働者の主張を紹介し、理解。					学生が5人ずつに分かれ疑問点をまとめる。		
第15回	前回のテーマでワークショップとまとめ		ワークショップをメモして残す。まとめ。					学生の疑問や意見に答える。		
評価方法及び評価基準	2度のワークショップの記録（50%）と試験（50%）。									
課題等	差別のニュース・記事にテレビのニュース・パソコン・スマホなどで日常的に関心を持つ。									
事前事後学修	前回学んだテーマについて、パソコン・スマホなどで関連する情報を読んでみよう。									
教材教科書参考書	・教科書；橋爪大三郎『政治の哲学』ちくま新書、880円。ISBN：978-4480071705									
留意点	なし									

科目名	経済学 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-06. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52016		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者（アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ）の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます。						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	失業の原因			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返ししながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版)日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431 ※品切中のため新品を入手することはできません。									
留意 点	なし									

科目名	経済学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-07. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52017		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	金融市場の役割			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	利子率の決定			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長の戦略			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返ししながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	（参考書）塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN: 9784309248417									
留意 点	なし									

科目名	心と身体A		科目ナンバリング	L-GEHU0-08. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹				授業 形態	講義	単独
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>人とコミュニケーションをとり、教育を行っていくためには、その背後にある人の心のメカニズムの理解が必須となります。この授業では言語をはじめとする様々な心の能力の基礎的なメカニズムを学んでいきます。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 心理学の学問的特徴を理解する。</p> <p>2) 「言語」「情動」「思考」などのコミュニケーションの基盤となる様々な心的能力の基本部分を理解する。</p> <p>3) コミュニケーションの際に留意すべき心の個人差、文化差、つまづきについて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	心理学とは何か			科学としての「心理学」がどのような学問か、概説する。						
第3回	心と脳			心のメカニズムの基盤となる中枢神経系について概説する。						
第4回	感覚と知覚（1）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の基礎的知見について概説する。						
第5回	感覚と知覚（2）			視覚を中心に取り上げ人の感覚知覚の応用的知見について概説する。						
第6回	記憶			人の記憶のメカニズムについて概説する。						
第7回	学習			人の学習に関する心理学の基礎研究や理論について概説する。						
第8回	言語			人が言語を理解、算出するメカニズムについて概説する。						
第9回	思考			人の思考のメカニズムとその傾向について概説する。						
第10回	情動			人の情動がその他の心的能力とどのように関わるのか概説する。						
第11回	性格・個人差			人の心の個人差に関する研究について概説する。						
第12回	社会と認知			人を取り巻く社会や文化がどのように物事の捉えかたに影響するのか概説する。						
第13回	心と進化			進化という観点から人の心の発生や特徴について概説する。						
第14回	カウンセリング			カウンセリングやそれに関わる心理学理論について概説する。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	簡単な課題を授業内で指示することがある。									
事前事後学修	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	無藤隆（編著）『新版 心理学』（有斐閣 2018年） * 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	心と身体B		科目ナンバリング	L-GEHU0-09. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52007		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人は絶えず変化する存在である。そうした変化を心理学では発達と呼ぶが、その理解は、他者とコミュニケーションをとり関わりを持つ際に重要な基盤となる。この授業では発達という視点から心理学について学んでいく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 言語の獲得過程とそれに伴う対人関係の発達の变化について理解する。</p> <p>2) コミュニケーションの際に留意すべき各年代の発達の特徴や心理的課題について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の概要や履修上の注意点を説明する。						
第2回	生涯発達			生涯発達とは何か、またその発達段階論について概説する。						
第3回	乳幼児期の認知・運動発達（1）			乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（1）。						
第4回	乳幼児期の認知・運動発達（2）			乳幼児期の言語獲得の基盤となる認知発達、運動発達について概説する（2）。						
第5回	乳幼児期の言語と対人関係の発達			乳幼児期の言語と対人関係の発達について概説する。						
第6回	発達障害と臨床的援助			基本的な発達障害の理解とその臨床的援助について概説する。						
第7回	児童期・思春期の発達			児童期から思春期にかけての心理発達と、それに伴う仲間関係の発達について概説する。						
第8回	児童期・思春期の心理障害と臨床援助			児童期・思春期の心理障害の特徴と、かかわりを持つ際の留意点について概説する。						
第9回	青年期の発達			アイデンティティの確立という観点から青年期の心的発達について概説する。						
第10回	青年期の心理障害と臨床援助			青年期発達の特徴と心理障害との関連性を概説する。						
第11回	成人期の発達			中年期の入り口や中年期から老年期への移行期に生じるアイデンティティの変容について概説する。						
第12回	家族臨床			夫婦療法や家族療法といった家族臨床と家族発達について概説する。						
第13回	老年期の発達と臨床援助			生涯発達という観点から老年期の捉え、その発達の課題について講義する。						
第14回	学校臨床・学生相談			学校における臨床援助活動や学生相談について概説する。						
第15回	まとめとふりかえり			授業全体について総括、補足する。						
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、コメントペーパーなど）40%、期末レポート60%									
課題等	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
事前事後学修	毎回の授業をノートを取り、事後学習として復習を行うこと。									
教材教科書参考書	下山 晴彦（編著）『教育心理学Ⅱ：発達と臨床援助の心理学』（東京大学出版局 1998年） * 毎回の授業内容を記載したプリントは毎回配布する。その他、参照してほしい文献などがある場合適宜指示する。									
留意点	特になし									

科目名	教育と人間A (生涯学習)		科目ナンバリング	L-GEHU0-10. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52018		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	奥野 武志			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>本授業は、「生涯学習」に関する歴史や制度の基礎について担当教員が講義を行った後、受講者がグループに分かれて意見交換を行い、気づいたことを文章化することを通して、各自が「生涯学習」についての理解を深めていくことを目指す。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習とは何かについて、歴史的背景を踏まえながら自分の言葉で説明できる。</p> <p>2) 生涯学習に関して、現在どのようなことが問題となっているのか自分の言葉で説明できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明 ・ 生涯学習とは何か					グループワーク ディスカッション		
第2回	生涯学習の基礎 (1)		・ 生涯教育と生涯学習					グループワーク ディスカッション		
第3回	生涯学習の基礎 (2)		・ 生涯学習の法制と行政					グループワーク ディスカッション		
第4回	生涯学習の基礎 (3)		・ 生涯学習施設					グループワーク ディスカッション		
第5回	生涯学習の基礎 (4)		・ 生涯学習の対象と方法					グループワーク ディスカッション		
第6回	生涯学習の基礎 (5)		・ 世界の生涯学習					グループワーク ディスカッション		
第7回	地域における生涯学習 (1)		・ 地域文化の継承					グループワーク ディスカッション		
第8回	地域における生涯学習 (2)		・ 地域防災教育					グループワーク ディスカッション		
第9回	地域における生涯学習 (3)		・ 地域スポーツの振興					グループワーク ディスカッション		
第10回	生涯学習と学校教育 (1)		・ 貧困・格差社会と学校教育					グループワーク ディスカッション		
第11回	生涯学習と学校教育 (2)		・ 刑務所の中の学校					グループワーク ディスカッション		
第12回	生涯学習と学校教育 (3)		・ 若者支援と居場所づくり					グループワーク ディスカッション		
第13回	生涯学習と学校教育 (4)		・ インクルーシブ教育					グループワーク ディスカッション		
第14回	生涯学習と学校教育 (5)		・ 多様性の包摂					グループワーク ディスカッション		
第15回	まとめ		・ 授業全体の総括					グループワーク ディスカッション		
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み（グループワーク、振り返り）：50% ・ まとめレポート：50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師は毎回の授業でグループ発表に対してコメントする。 ・ 振り返りはteamsを通じて提出する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学修：日頃から教育に関するニュースに親しみ、何が問題となっているか把握しておく。 ・ 事後学修：授業を通じて浮かんだ疑問について調べる。事前事後合わせて3時間程度の学修を想定している。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は特に指定しない。毎回授業レジュメを配布し、参考書等を適宜紹介する。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画はあくまで予定である。参加学生の興味関心等に応じて授業内容が変わることがある。 									

科目名	教育と人間B (社会教育)		科目ナンバリング	L-GEHU0-11. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52019		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	越村 康英			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 教育・学習という営みは、学校や授業の中だけで完結するものではない。 この授業では、生涯学習の視点から多角的に教育・学習という営みを捉え返し、生涯学習の理念・意義について探求する。また、生涯学習と、その中心的な領域である社会教育について、法律・制度、政策、実践など幅広い視点から概説していく。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<p>(1) 生涯学習の意義について、自己の生き方も結び付けながら理解できるようになること。 (2) 生涯学習・社会教育に関する基礎的な知識を身に付けること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス 生涯学習とは何か			授業の目的・内容・方法・評価について説明する。 生涯学習の基本的な概念について確認する。						
第2回	私の学習史—自己形成のあゆみ			教育・学習と自己形成の関係について振り返る。						
第3回	基本的人権としての教育・学習①			日本における識字問題を切り口に、教育・学習の意義について考察する。						
第4回	基本的人権としての教育・学習②			憲法・教育基本法、ユネスコ学習権宣言などに着目し、教育・学習の意義について掘り下げる。						
第5回	社会教育とは何か			社会教育法に即して社会教育の基本概念を解説する。						
第6回	生涯学習社会の構築と教育行政			教育委員会（社会教育行政）の制度と基本的な役割について解説する。						
第7回	生涯学習社会の構築と公民館			公民館の制度と基本的な役割について解説する。						
第8回	生涯学習社会の構築と図書館			図書館の制度と基本的な役割について解説する。						
第9回	生涯学習社会の構築と博物館			博物館の制度と基本的な役割について解説する。						
第10回	生涯学習を支援する主体の多様化			生涯学習を支援するための公的な仕組みに留まらず、NPO・企業など多様な主体が担っている役割について具体的に把握する。						
第11回	国際社会における生涯教育論の展開			生涯学習をめぐる国際的動向について、ユネスコの動きを中心に解説する。						
第12回	日本における生涯学習政策の展開と特徴			1980年代以降の生涯学習政策の動向をレビューしながら、その特徴について解説する。						
第13回	生涯学習社会の構築に向けた課題			困難を抱えた人々の学習活動の保障・支援など、生涯学習社会の構築に向けた今日的課題について解説する。						
第14回	生涯学習社会の構築に向けた展望			社会教育行政・施設に求められる今日的役割に主眼を置きながら、生涯学習社会の構築に向けた展望を探る。						
第15回	試験 授業のまとめ			授業時間内に小論文形式の試験を行う。 その後、本授業のまとめを行う。						
評価方法及び評価基準	<p>次の2点により総合的に評価する。 (1) 平常点50%（授業時の「小課題」への取り組み、授業への参加姿勢から評価する。） (2) 試験50%（授業の到達目標に照らして評価する。）</p>									
課題等	<p>毎回の授業内容を振り返り、関心をもった点や疑問点について自分自身で探求していくことを期待する。 ※探求方法が分からない場合は、積極的に質問・相談してほしい。</p>									
事前事後学修	<p>新聞やニュース、自治体の広報などを日常的に確認し、教育・学習に関する話題や議論について着目し、自分なりの見方・考え方を持てるようにする。週当たり3時間程度の学習が目安となる。</p>									
教材教科書参考書	<p>【教科書】購入が必要な教科書はない。レジュメ・資料などを配布し、授業を進める。 【参考書】社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック（第9版）』エイデル研究所、2017年、978-4-87168-604-4 その他の参考書は、随時、授業のなかで紹介する。</p>									
留意点	<p>授業への積極的な参加を期待する。</p>									

科目名	歴史と社会 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-12. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア		ベティ・ウィリアムズと平和団体を設立。 再教育の重要性を強調					グループワーク		
第2回	アムネスティ・インターナショナル		囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済					グループワーク		
第3回	メナヘム・ベギン		イスラエル首相、サダト大統領との和平合意					グループワーク		
第4回	アンワル・サダト		エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意					グループワーク		
第5回	マザー・テレサ		終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教師信徒会					グループワーク		
第6回	アドルフォ・ベレス・エスキベル		平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞					グループワーク		
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール		スウェーデンの福祉国家論					グループワーク		
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス		ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロコ条約					グループワーク		
第9回	レフ・ワレサ		グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領					グループワーク		
第10回	デズモンド・ムピロ・ツツ		アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教					グループワーク		
第11回	核戦争防止国際医師会議		マサチューセッツ州サマービル、 フクシマの被爆許容量修正抗議					グループワーク		
第12回	エリ・ヴィーゼル		強制収容所、小説『夜』、					グループワーク		
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス		コスタリカ、国民解放党、大統領					グループワーク		
第14回	国際連合平和維持活動		PK0, ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動					グループワーク		
第15回	リゴベルタ・メンチュウ		先住民の権利宣言、「万人の健康社」の設立、					グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。									
課題 等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前 事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意 点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ノーベル平和賞受賞者の生涯の記録を辿りながら、どの様に平和形成に関心を持つに至ったかを分析する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達 目標	各時代の戦争状況の変化の中で、平和を目指す活動にどのような種類があるか、その中で、本人が何を目指したかを学ぶ。民族・宗教・歴史の違いから、平和活動の意義を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ネルソン・マンデラ		アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領					グループワーク		
第2回	フレデリック・デクラーク		国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止					グループワーク		
第3回	ヤセル・アラファート		ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、					グループワーク		
第4回	シモン・ペレス		新党ラフィ、労働党、PLOとの和解					グループワーク		
第5回	イツハク・ラビン		パルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言					グループワーク		
第6回	パグウォッシュ会議		科学と国際問題に関する会議、ラッセル・アインシュタイン宣言					グループワーク		
第7回	ジョゼフ・ロートブラット		マンハッタン計画、パグウォッシュ会議、					グループワーク		
第8回	カルロス・ベロ		司教叙階、東ティモール人包括対話					グループワーク		
第9回	ジョゼ・ラモス=ホルタ		東ティモール民主協会、自決権行使、独立					グループワーク		
第10回	地雷禁止国際キャンペーン		対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約					グループワーク		
第11回	ジョディ・ウィリアムズ		エルサルパドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶					グループワーク		
第12回	ジョン・ヒューム		クレジットユニオン運動、ベルファスト合意					グループワーク		
第13回	デヴィッド・トリンブル		北アイルランド、社会民主労働党					グループワーク		
第14回	国境なき医師団		ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅					グループワーク		
第15回	金大中		新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止					グループワーク		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40%</p> <p>毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているかを評価する。</p>									
課題 等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前 事後 学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意 点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポート提出すれば、まだよい。									

科目名	現代の社会と文化 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-14. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 20世紀以降の先進国の文化や生活様式に多大な影響を与え続けている、メディアの変化および消費社会化について学ぶ。それぞれ、メディア技術の発展がコミュニケーションや社会関係にもたらした影響、消費社会化がマクロ社会や人間関係、生き方にもたらした変化について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの概念、歴史を知ることにより、私たちのコミュニケーションのあり方を相対化してみられるようになる ・消費社会に関する問題を理解することによって、私たちが日常的に行っている消費行動の社会的な意味を理解できるようになる ・情報、消費に媒介されて成立している現代文化のありようを長い時間軸の中で理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	後期近代社会における社会変動			情報社会化、消費社会化、リスク社会化						
第2回	メディアとは何か			メディアの概念						
第3回	メディアの歴史（1）			メディアの発展とコミュニケーションの変化						
第4回	メディアの歴史（2）			インターネット上のコミュニケーション						
第5回	メディアとリアリティ			メディアと現実の関係						
第6回	マス・メディアの効果（1）			弾丸理論、限定効果説、強力効果説						
第7回	マス・メディアの効果（2）			マス・メディアの送り手と受け手				グループワーク		
第8回	消費社会の歴史と特徴（1）			消費社会の問題						
第9回	消費社会の歴史と特徴（2）			日本の消費社会、欧米の消費社会						
第10回	消費社会と文化の問題（1）			欲求のあり方と消費						
第11回	消費社会と文化の問題（2）			記号の消費と社会						
第12回	経済成長と幸福			経済発展と幸福の関係						
第13回	脱物質主義化			欲求階層論、脱物質主義化						
第14回	グローバル化と消費社会			グローバル化が消費にもたらす影響						
第15回	消費社会と環境問題			資源問題と環境問題				グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。試験では、基本的な概念を理解できているかどうか、およびそれら基礎的な概念を使用して現実の社会に存在している問題を自らの考えに基づいて説明できるかという点を評価します。論述問題に関しては、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	教科書は使用しません。参考図書は授業中に指示します。									
留意点	Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます									

科目名	現代の社会と文化B		科目ナンバリング	L-GEHU0-15. SS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>社会学の基礎的な知識を学ぶことで、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、ジェンダー、家族、グローバル社会、健康・医療など。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2・7に関連し、カリキュラムポリシーの2・7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアーに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	社会学とは何か（1）			人文社会科学と社会学						
第2回	社会学とは何か（2）			社会学のはじまり（デュルケム、ウェーバー、ジンメル）						
第3回	自己の社会学（1）			自己とは何か						
第4回	自己の社会学（2）			社会的に定義される自己						
第5回	自己の社会学（3）			自己と他者のコミュニケーション						
第6回	ジェンダーとセクシュアリティ（1）			ジェンダーの概念と特徴						
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（2）			ジェンダーと社会						
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（3）			セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ						
第9回	家族の社会学（1）			家族とは何か						
第10回	家族の社会学（2）			結婚と家族						
第11回	家族の社会学（3）			戦後社会における家族の変化				グループワーク		
第12回	グローバル社会とエスニシティ（1）			エスニシティと国民国家						
第13回	グローバル社会とエスニシティ（2）			多文化社会と共生社会						
第14回	健康・医療の社会学（1）			健康の概念、医療化						
第15回	健康・医療の社会学（2）			医療と社会				グループワーク		
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかを試す問題を出します。論述問題に関しては、見解のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	<p>教科書：宇都宮京子・西沢晃彦編『よくわかる社会学 [第3版]』ミネルヴァ書房（ISBN: 978-4-623-08971-0）</p> <p>参考図書は授業中に指示します。</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の授業のうちの1回はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。 ・Teams、Formsを通じて、授業内容に対する質問、コメント等を受けつけます 									

科目名	情報の科学 A		科目ナンバリング		L-GENAO-00. HKN	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期	
			科目 コード	1限目								G53000
				3限目								G53001
				4限目								G53002
区分	一般教育科目	必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独		
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 パソコンの基本的な操作法と代表的なアプリケーションであるワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を学ぶ。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>											
到達 目標	<p>パソコン初心者でも、基本文書等の作成ができるようになることを目標とする。レポートや資料の作成に困らない技能を身につける。</p>											
授 業 計 画												
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修							備考		
第1回	パソコンの起動とWindowsの基礎		Windowsの起動と終了 アプリケーションソフトの基本操作									
第2回	インターネット		インターネットの利用							情報倫理を含む		
第3回	Word 1		Wordの起動と終了 文字入力									
第4回	Word 2		漢字変換 文章の入力・訂正									
第5回	Word 3		ファイルの保存と読み込み・ページ設定と印刷 文書の作成・文字の書式									
第6回	Word 4		表・画像と図形									
第7回	課題第1回		Word課題									
第8回	情報検索／課題第2回		インターネットで情報検索							インターネットによる 学術情報の利用		
第9回	電子メール／課題第3回		電子メール・添付ファイル							情報セキュリ ティ・情報倫理を 含む		
第10回	Excel 1		Excelの起動と終了 データ入力の基礎									
第11回	Excel 2		ワークシート編集 関数を使った計算式・相対参照と絶対参照									
第12回	Excel 3		罫線・グラフ・条件判定									
第13回	課題第4回		Excel課題									
第14回	PowerPoint 1		PowerPointの起動・プレゼンテーションの作成									
第15回	PowerPoint 2		アニメーション効果・スライドショー									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。</p>											
課題 等	<p>授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。</p>											
事前事 後学修	<p>教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>											
教材 教科書 参考書	<p>『30時間でマスターOffice 2016』実教出版(本体1000円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784407340181</p>											
留意 点	<p>受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。</p>											

科目名	情報の科学B		科目ナンバリング		L-GENA0-01.SS	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目 コード	3限目 4限目							
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>ワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの効果的な使用法を、問題練習を通じて学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>										
到達 目標	文書や資料の実践的な作成能力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	ガイダンス+コンピュータの基本操作		ガイダンス コンピュータの基本操作								
第2回	Word 1		文書の作成と管理								
第3回	Word 2		一般的なビジネス文書の作成								
第4回	Word 3		シンプルなレポートや報告書の作成								
第5回	Word 4		表、画像、図形を使った文書の作成								
第6回	課題第1回		Wordの課題								
第7回	PowerPoint 1		プレゼンテーションの企画／わかりやすいストーリー構成								
第8回	PowerPoint 2		センスアップするレイアウトデザイン								
第9回	PowerPoint 3		イメージを伝えるイラスト・写真活用								
第10回	課題第3回		PowerPointの課題								
第11回	Excel 1		表作成の基本操作								
第12回	Excel 2		表を見やすく使いやすくする編集操作								
第13回	Excel 3		数式・関数を活用した集計表の作成								
第14回	Excel 4		グラフの基本								
第15回	課題第2回		Excelの課題								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45%</p> <p>課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。</p> <p>試験なし。</p> <p>単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。</p>										
課題 等	<p>授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。</p> <p>※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。</p>										
事前 事後 学習	<p>教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。</p> <p>事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>										
教材 教科書 参考書	『情報活用基本演習Office2016対応』日経BP社(本体1600円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784822297985										
留意 点	<p>定員：各コマ40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意)</p> <p>受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。</p> <p>USBメモリーを用意すること。</p>										

科目名	環境の科学		科目ナンバリング	L-GENA0-02. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 中央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できるようにする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備 考	
第1回	近年の自然災害に学ぶ①			人口密集地帯での自然災害					講義	
第2回	近年の自然災害に学ぶ②			山間部で生じる自然災害					講義	
第3回	近年の自然災害に学ぶ③			ハザードマップと地理院地図					講義	
第4回	沖積平野における自然災害①			沖積平野の地形をよむ（空中写真判読）					講義	
第5回	沖積平野における自然災害②			津波・高波による自然災害のしくみ					講義	
第6回	沖積平野における自然災害③			河川氾濫による自然災害のしくみ					講義	
第7回	沖積平野における防災・減災			各地域における防災と減災のとりくみについて					講義	
第8回	火山のくに日本①			火山の定義					講義	
第9回	火山のくに日本②			火山地形とその形成過程					講義	
第10回	火山災害①			マグマと溶岩流について					講義	
第11回	火山災害②			山体崩壊による大規模災害					講義	
第12回	火山災害③			降下火山灰がもたらす災害					講義	
第13回	火山災害④			ポンペイの噴火から学ぶ噴火様式					講義	
第14回	火山からの恩恵			火山が人間にもたらす恵み					講義	
第15回	火山の周辺地域における防災・減災			火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて					講義	
評価 方法 及び 評価 基準	試験（80％）、小レポート（20％） 最終回に論述式の試験を実施、小レポートは総括して評価に反映する。									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学修	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意 点	状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。									

科目名	生命の科学A		科目ナンバリング	L-GENAO-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 生命の誕生からヒトの成長過程を学習し、更に、最先端生命の科学を習得する。DVDおよび解剖生理学のアニメーションを視聴し理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生から生体の形態や機能について学ぶ。 ・最先端生命の科学について学ぶ。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	生体のしくみ 1			ガイダンス、細胞と組織の概要とウイルスについて（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第2回	最先端の生命の科学 1			iPS細胞の概要、DVD視聴「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学iPS細胞研究所」						
第3回	最先端の生命の科学 2			iPS細胞を用いた研究、DVD視聴「夢の扉 iPS細胞の未来」						
第4回	生体のしくみ 2			脳と神経（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第5回	生体のしくみ 3			骨と筋肉（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第6回	生体のしくみ 4			消化器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第7回	生体のしくみ 5			呼吸器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第8回	生体のしくみ 6			循環器①（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第9回	生体のしくみ 7			循環器②（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第10回	生体のしくみ 8			感覚器①（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第11回	生体のしくみ 9			感覚器②（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第12回	生体のしくみ 10			泌尿器（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第13回	生体のしくみ 11			内分泌（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第14回	生体のしくみ 12			血液と免疫①（WEBを視聴し理解を深める）				ディスカッション		
第15回	生体のしくみ 13			血液と免疫②（WEBを視聴し理解を深める）レポート課題について				ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題 等	レポート課題はTeamsにより提出する。									
事前事後学修	事前学修（60分）：講義概要および授業全体の流れを確認しておく、事後学修（120分）：授業の内容を振り返り、学修ポイントを復習する。									
教材 教科書 参考書	プリントとスライドを併用する。参考書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学、松村 譲児（ナツメ社）、ISBNコード 978-4-8163-6294-1、これだけ！iPS細胞、夏緑（秀和システム）、ISBNコード 978-4-7980-4249-7									
留意 点	普段から生態系や環境について興味をもち、新聞の科学欄に必ず目を通す姿勢を身につける。									

科目名	生命の科学B		科目ナンバリング	L-GENAO-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	授業の進め方などの説明。生命科学と現代社会のかかわり		授業の進め方と評価方法の説明、自然科学とは					Slidoを用いた双方向型授業		
第2回	細胞：生命の基本単位		生物（生命）とは、生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか					Slidoを用いた双方向型授業		
第3回	メンデル遺伝学		メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか					Slidoを用いた双方向型授業		
第4回	個人差、遺伝子の変異		遺伝子の変異とはなにか？、遺伝子多型、一塩基多型を調べる					Slidoを用いた双方向型授業		
第5回	DNAの複製、転写、翻訳と変異		DNAの構造と複製、遺伝子の転写から翻訳のしくみ、変異の種類					Slidoを用いた双方向型授業		
第6回	エピゲノム		エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノム情報は遺伝する？					Slidoを用いた双方向型授業		
第7回	感染と免疫		人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、免疫応答のしくみ					Slidoを用いた双方向型授業		
第8回	脳はどこまでわかったか		ヒトの脳の構造、神経細胞、記憶と学習の種類、記憶と長期増強					Slidoを用いた双方向型授業		
第9回	身体運動の生命科学1		脳の構造と機能に対する身体運動（身体活動）の影響					Slidoを用いた双方向型授業		
第10回	がんとはどのような現象か		日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療					Slidoを用いた双方向型授業		
第11回	食と健康1		食べるとは、消化と吸収、エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題					Slidoを用いた双方向型授業		
第12回	食と健康2		肥満、エネルギー摂取と消費のバランス、ダイエット（減量、体脂肪量の減少）					Slidoを用いた双方向型授業		
第13回	身体運動の生命科学2		身体運動（身体活動）と生活習慣病について、糖尿病について、2型糖尿病（または高血糖）への身体運動の効果とその分子メカニズム					Slidoを用いた双方向型授業		
第14回	老化		老化とはどのような状態か、老化と死亡率との関係、老化の実験モデル、老化のメカニズム、老化の予防は可能か？					Slidoを用いた双方向型授業		
第15回	生命科学技術と生命倫理		ゲノム編集、人口妊娠中絶					Slidoを用いた双方向型授業		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題を出題して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	レポートの評価基準またはおさえておくべきポイントを、研究室の前の掲示板に掲示する予定です。									
事前事後学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）でその情報を調べてください。									
教科書参考書	教科書：現代生命科学（第3版）、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033（必ず購入してください。） 参考書：①カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書、第1巻～第3巻、D・サダヴァ 他著、石崎 泰樹／丸山 敬 監訳・翻訳 ②健康に老いる 老化とアンチエイジングの科学 後藤佐多良 著、東京堂出版（①、②の参考書は購入する必要はありません。） 参考書：基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（羊土社）など多数あります。									
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。									

科目名	科学と現代 A		科目ナンバリング	L-GENAO-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53008		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では、身の回りのもの・現象や新聞・ニュースの科学用語などに題材を取って、科学がどのように役立っているかを 実感してもらうことを目標とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	身近な自然現象、身の周りのハイテク製品、社会を支える科学技術がどのような原理に基づいているのかを学ぶ。また、現代物理の自然観を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	物理学の構成		巨視的世界と微視的世界							
第2回	単位と次元		SI単位系の成立 組立単位と次元					プリント配布		
第3回	力学の法則		運動の三法則 エネルギー保存則と運動量保存則							
第4回	円運動と遠心力		慣性力 等速円運動と遠心力					プリント配布		
第5回	エネルギー		力学的なエネルギー エネルギー保存則とエネルギーの転換					プリント配布		
第6回	振動現象		振動 振り子・パラメーター励振					プリント配布		
第7回	波と電磁波		波の要素・音波 電磁波					プリント配布		
第8回	熱と温度		熱平衡・温度 熱と比熱					プリント配布		
第9回	原子核と放射線		原子と原子核の構造・原子核の崩壊 原子核の崩壊様式と放射線					プリント配布		
第10回	核分裂・核融合		核反応の保存則・核分裂・核分裂連鎖反応と臨界 核融合					プリント配布		
第11回	放射線と医療		放射線の種類・X線撮影・核医学診断画像・ガン治療					オンデマンド授業		
第12回	宇宙進化と元素の起源		宇宙の始まり・宇宙の元素組成・恒星中での元素合成 超新星爆発による核融合					プリント配布		
第13回	素粒子		素粒子の分類・4つの相互作用					プリント配布		
第14回	ニュートリノ		弱い相互作用 ニュートリノ振動とニュートリノの質量					プリント配布		
第15回	重力波		一般相対性理論 重力波とその検出					プリント配布		
評価 方法 及び 評価 基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題 等	試験の答えは採点して返却する。									
事前 事後 学修	授業の理解には、一部それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	必要に応じてプリント配布									
留意 点	※ 第11回はオンデマンド授業です。詳細はTeamsで指示します。以後の回が1週繰り上がるため、試験は7月26日となります。									

科目名	科学と現代B		科目ナンバリング	L-GENAO-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53009		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 数学の言葉と技法は、自然現象から経済・社会などの人間活動まで、様々な事象を記述し解析するのに役立っている。計算技術よりも考え方に重点を置いて解説する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	確率・統計の基本的な概念を理解し、考え方を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	確率の基礎		確率の性質 確率の加法定理							
第2回	確率的推論(1)		確率の乗法定理 独立試行							
第3回	確率的推論(2)		ベイズの定理							
第4回	統計学の考え方		統計学の目的・統計学の種類 統計データの整理法							
第5回	代表値と散布度		代表値 散布度							
第6回	正規分布		確率分布・正規分布 正規分布の標準化・正規分布表							
第7回	相関と回帰分析		相関・相関係数 回帰分析							
第8回	推定と検定(1)		母集団と標本 点推定							
第9回	推定と検定(2)		母分散が既知のときの母平均の区間推定 t分布							
第10回	推定と検定(3)		母分散が未知のときの母平均の区間推定							
第11回	推定と検定(4)		母比率の区間推定							
第12回	推定と検定(5)		検定の手順 検定の誤り							
第13回	推定と検定(6)		両側検定と片側検定 母平均の検定							
第14回	推定と検定(7)		母比率の検定							
第15回	試験解答		試験解答						この授業は最終週 に行う	
評価方法及び評価基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題等	試験の答えは採点して返却する。									
事前事後学修	授業の理解には、それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント配布									
留意点	15週目(今年度は1月24日)に試験を行い、最終回に上記第15回の内容を行う予定である。									

科目名	科学と現代C		科目ナンバリング	L-GENAO-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を理解し、地形を形成する自然現象についての理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	イントロダクション			自然地理学とは				講義		
第2回	世界の地形環境			陸地と海底の大地形と地質				講義		
第3回	気候因子と気候要素			身近な地域の気候の把握				講義		
第4回	ケッペンの気候区分①			計算式による気候区分				講義		
第5回	ケッペンの気候区分②			計算式による気候区分				講義		
第6回	ケッペンの気候区分③			動気候学的にとらえるケッペンの気候区分				講義		
第7回	第四紀に生じた気候変動①			氷期-間氷期サイクル				講義		
第8回	第四紀に生じた気候変動②			完新世における縄文海進				講義		
第9回	第四紀における地形の形成①			気候変動がもたらした段丘の形成				講義		
第10回	第四紀における地形の形成②			地盤隆起がもたらした段丘の形成				講義		
第11回	第四紀における地形の形成③			活断層と断層地形				講義		
第12回	東北の地帯構造①			山と盆地の配列				講義		
第13回	東北の地帯構造②			プレートテクトニクス				講義		
第14回	弘前の地形①			地形図の読図				講義		
第15回	弘前の地形②			台地を刻む開析谷				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験（80％）、小レポート（20％） 最終回に論述式の試験を実施、小レポートは総括して評価に反映する。									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前 事後 学習	事前学習は講義内容をシラバスで毎回確認し、図書などで調べて授業に参加すること。事後学習は授業内容の復習。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を毎回持参すること。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄、橙、緑）程度を用意すること。									
留意 点	状況に応じてオンライン授業アプリ（Teams）を使用して授業を実施することもある。									

科目名	科学と現代D		科目ナンバリング	L-GENAO-08. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	長南 幸安			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。						
第2回	原子のすがた①			体を作る物質・原子の構造						
第3回	原子のすがた②			電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子						
第4回	「もの」の量の表し方			物質量の表し方あれこれ						
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか			濃度の種類と定義						
第6回	「もの」の成り立ち①			原子の結合						
第7回	「もの」の成り立ち②			分子の結合・化学反応						
第8回	有機化学①			有機化合物の分類法と表し方						
第9回	有機化学②			生体高分子の構造・消化と酵素						
第10回	水の化学①			からだのなかの液体						
第11回	水の化学②			イオンと電解質						
第12回	からだの中の現象①			浸透現象						
第13回	からだの中の現象②			酸と塩基						
第14回	からだの中の化学反応			化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル						
第15回	まとめ			今までの総まとめ						
評価方法及び評価基準	<p>期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。</p>									
課題等	<p>期末試験の採点後の答案は、希望者に開示します。</p>									
事前事後学修	<p>学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。</p>									
教科書 教科書 参考書	<p>教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いづみ 共著 化学同人 ISBN:978-4-7598-1543-6</p>									
留意点	<p>毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修者向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー: 月～金 8:00～8:30(弘前大学教育学部4-29号室)</p>									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目ナンバリング	L-GENAO-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について学習します。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>人体の臓器（または組織）の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について			授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類						
第2回	健康とは、健康問題の概観			健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因				Slidoでのアンケート		
第3回	栄養と健康（1）			消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント						
第4回	栄養と健康（2）			肥満						
第5回	心身の健康を知る（1）			健康診断（身長、体重、BMI、血圧、心電図、胸部X線）						
第6回	心身の健康を知る（2）			健康診断（血液検査；血球数、ヘモグロビン値、コレステロール、中性脂肪、クレアチニン値）						
第7回	心身の健康を知る（3）			メタボリックシンドローム、心の健康						
第8回	体力および持久力の指標			体力の分類とその加齢変化、および持久力の指標				グループワークを含む		
第9回	身体活動・体力と疾病の関係			身体活動量・体力と疾病との関係、および健康関連体力						
第10回	身体運動のプログラム			効率的に持久力、筋力（筋肥大）、柔軟性を高めるトレーニングの方法						
第11回	身体活動の指針			WHOと日本の身体活動指針						
第12回	身体運動（スポーツ）による外傷・障害と応急処置			急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死						
第13回	アダプテッド・スポーツ			アダプテッド・スポーツとは？、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方						
第14回	アルコール・喫煙・睡眠と健康			アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割						
第15回	生物学的女性の健康と医学			性ホルモンの変化と卵巣および月経周期、月経関連疾患（PMS、月経困難症など）						
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、定期試験（筆記試験またはレポート）（100%）によって評価し、60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	なし									
事前事後学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習（1.5時間）をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください（1.5時間）。									
教材教科書参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館（看護学部棟）の宇田研究室に来てください。Teamsを使用します。授業では「Slido」を用い、匿名でのライブアンケートや質疑応答、確認テストを行うことがあります。									

科目名	地域研究 A		科目ナンバリング	L-GERE0-00. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G54000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	畠山 篤			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】 地元の津軽の民俗には、この地域の国魂（くにたま）ともいうべき霊峰・岩木山にまつわる神と鬼の伝承が夥しくある。この神山の聖なる神話の諸相をみ、その生成を辿りながら、その真相・意義に迫りたい。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	1 津軽の岩木山の神と鬼の伝承の生成・構造・主題に迫れる。 2 諸説を整理できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	旧百沢寺の語る岩木山権現の由来譚の概要			現岩木山神社の語る権現の由来譚の概要を知る。						
第2回	旧百沢寺の語る岩木山権現の由来譚の生成			現岩木山神社の語る由来譚の生成を知る。						
第3回	高照神社の語る岩木山権現の由来譚の概要と生成			高照神社の語る岩木山権現の概要とその生成を知る。						
第4回	イタコの語るお岩木山一代記			お岩木山一代記の概要を知る。						
第5回	東アジアに流布するシャーマン文化			お岩木山一代記が東アジアに流布するシャーマン文化の一翼を担うことを知る。						
第6回	上記三つの由来譚の生成			上記三つの由来譚が生成する基盤と時代相を探る。						
第7回	津軽の鬼伝承の単純型と山幸型			津軽の鬼伝承の単純型と山幸型の事例を知る。						
第8回	鬼伝承の農耕型と鉄器型			鬼伝承の農耕型と鉄器型の事例を知る。					レポート提出(1)	
第9回	鬼伝承の民間巫者型と退治型			鬼伝承の民間巫者型と退治型の事例を知る。						
第10回	鬼伝承の権威守護型			鬼伝承の権威守護型の事例を知る。						
第11回	鬼沢の鬼伝承の大人伝承と鬼神			鬼沢の鬼伝承の大人型と鬼神社の由来を知る。						
第12回	鬼沢の鬼の田の由来			鬼沢の鬼の田などの伝説を知る。						
第13回	鬼沢の七日堂祭の由来			鬼伝承が祭式化された七日堂祭の構造を解明する						
第14回	鬼沢の鬼の寺の由来			鬼の寺の由来を知る。					レポート提出(2)	
第15回	まとめ			津軽と神と鬼の伝承を振り返る。						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への取り組みと毎回の授業評価（30％）。レポート（1000字くらい）2本（35％×2）。レポートの評価は、毎年配布している「作文心得」に基づく。すなわち、書式を守る、題名のつけ方、主題の明示、句読点の位置、段落意識の有無などである。									
課題 等	テキスト以外の著書を、テキストの参照文献を頼りにして極力読むこと。									
事前 事後 学修	テキストを事前と事後に目を通すこと。									
教材 教科書 参考書	『岩木山の神と鬼』（ISBN978-4-86726-790-5）（畠山篤）									
留意 点	レポートは一定のレベルに達するまで添削と再提出を反復する。6回以上欠席した場合は、単位を認定しない。研究室への来訪を歓迎する。									

科目名	地域研究B		科目ナンバリング	L-GEREO-01. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G54001		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	今村 かほる、宮田 将希 高橋 和幸、大瀬 富士子、高田 まり子			授業 形態	講義	オムニバス	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 講義はオムニバス形式で行う。3学部の教員が共同体制で行う講義で、広く専門的な観点から、津軽や東北、あるいは日本といった、視点を変えて津軽のような「方言主流社会」において、方言話者と非方言話者との共生について、また世代間交流の問題についても学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	方言主流社会における生活者を、どのように支援していくか、そのための理論と方法を学び、実践に応用できるレベルに達することを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	地域課題とコミュニケーション		世代間コミュニケーション・方言理解・地域理解の全体像を示し、現代社会の課題として問題の位置づけをする					4/10：今村		
第2回	(言語1) 「方言概説」		地域方言としての津軽弁・東北方言と共通語の歴史について知る					4/17：今村		
第3回	(言語2) 「先行研究から」		医療・看護・福祉と方言研究の研究史を実際の資料を使って概観する					4/24：今村		
第4回	(言語3) 「津軽の問題を中心に」		地域課題としての高齢化と世代間コミュニケーションギャップの問題を考える。講義時の内容に関するグループワークをする。					5/1：今村 グループワークあり		
第5回	(言語4) 「災害と方言」		東日本大震災における被災地での支援者と被災者とのコミュニケーションギャップについて考える。グループワークをする。					5/15：今村 グループワークあり		
第6回	(言語5) 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」1		これからの医療・看護・福祉を取り巻く問題 高齢化と外国人労働者					5/22：今村		
第7回	(言語6) 「保健医療福祉と方言 -よりよく生きるために-」2		これからの医療・看護・福祉を取り巻く方言問題の解決策を探る。討論・グループワーク。レポート課題。					5/29：今村 グループワークあり		
第8回	(社会福祉1) 「方言と文化、暮らし1」		同じ訛りがあることに親しみを感じたり、同じ地域に住むことで一体感が生まれやすかったり、伝統文化や食文化には地域間で違いがあったりすることを再確認して頂く。その地方独特の方言と暮らしを尊重できるように、話題提供したい。					6/5：高橋		
第9回	(社会福祉2) 「方言と文化、暮らし2」		自分が生まれ育った地域に対する深い愛着を持ってふるさとが絶対的だという心情の形成に、方言は大きな影響力をもっているものと思われる。そこで、都道府県別幸福度ランキングから様々な地域特性を紹介して一緒に笑ったり、なぜ地域差が生まれるか一緒に考えたりしたい。					6/12：高橋 グループワークあり		
第10回	(社会福祉3) 「方言と文化、暮らし3」		地方に暮らすクライアントの語りを通して知る、クライアントの生活史と生活問題の発生原因について一緒に考える。					6/19：高橋		
第11回	(看護1) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える(1)					6/26：大瀬		
第12回	(看護2) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える(2)					7/3：高田		
第13回	(看護3) 「津軽弁からみる介護・看護の心」		津軽弁を通して、生老病死に寄り添い、尊厳を守り癒すことを考える(3)					7/10：高田		
第14回	(社会福祉4) 「方言と文化、暮らし4」		①児童養護施設で暮らす子どもたちの理解、②入所児が語る様々な生活課題とその背景、③施設と地域との交流や連携について					7/14：宮田		
第15回	総括		オムニバス講義の総括をする					7/21：今村		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。講義時間中の課題によって出席に替える場合もある。レポートの場合、講義内容を整理しただけのものは「可」、先行研究を調べたものは「良」、先行研究を広く調べ知見を得ているものは「優」、さらに独創的な見解にいたったものは「秀」とする。									
課題等	各担当者の指示による									
事前事後学修	講義時に紹介する参考文献やURLを中心として、調べ学習をし、レポートを書く。									
教材教科書参考書	各担当者により、プリント等を配布する。また、Web上に公開した問診教材およびデータベースを利用する。									
留意点	担当者により、講義時に課題・レポート・実技等を課すので、それぞれの指示に従うこと。オリエンテーション時に資料を配布する。									

科目名	教養演習 A		科目ナンバリング	L-GELS9-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50026		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>野球は1872年に日本に伝来し、現在では人気スポーツの1つとなっている。そこで、「野球」というフィルターを通して、明治時代から現在までの日本の歴史について考える。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	野球の歴史を学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	19世紀の日本野球史			19世紀の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第3回	1900～10年代の日本野球史			1900～10年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第4回	1920年代の日本野球史			1920年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第5回	1930年代の日本野球史			1930年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第6回	1940～50年代の日本野球史			1940～50年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第7回	1960～70年代の日本野球史			1960～70年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第8回	1980～90年代の日本野球史			1980～90年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第9回	2000～10年代の日本野球史			2000～10年代の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第10回	2020年代以降の日本野球史			2020年代以降の日本野球史について考える。				ディスカッション		
第11回	野球と文化（1）			野球と文化について考える。				ディスカッション レポート提出		
第12回	野球と文化（2）			野球と文化について考える。				オンデマンド授業		
第13回	レポート発表（1）			レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第14回	レポート発表（2）			レポートを発表する。				プレゼンテーション		
第15回	まとめ			授業の総括。						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材教科書参考書	特に指定しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第12回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。									

科目名	教養演習B		科目ナンバリング	L-GELS9-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50027		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	井上 裕太 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 明治時代から現在に至るまでの音楽文化について、「展示」に着目し、その変遷や特徴を学ぶ。あわせて、当時の流行音楽や社会的背景についても理解する。これらを通じ、多面的思考力を養う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	音楽文化について学ぶだけでなく、学際的な視点から物事を捉える力を身に付ける。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修							備考	
第1回	ガイダンス	授業の進め方								
第2回	明治期の音楽文化	明治期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第3回	大正期の音楽文化	大正期の音楽資料の展示や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第4回	音楽博物館建設運動と日本社会（1）	1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。							ディスカッション	
第5回	音楽博物館建設運動と日本社会（2）	1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。							ディスカッション	
第6回	音楽博物館建設運動と日本社会（3）	1930年代を中心とした音楽博物館建設運動と、当時の音楽文化について考える。							ディスカッション	
第7回	戦時中の音楽文化	戦時中の音楽資料の展示や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第8回	1940年代後半の音楽文化	1940年代後半の音楽資料の展示や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第9回	1950年代の音楽文化	1950年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第10回	1960年代の音楽文化	1960年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第11回	1970年代～1990年代の音楽文化	1970年代～1990年代の音楽博物館論や音楽文化について考える。							ディスカッション	
第12回	2000年代以降の音楽文化	2000年代以降の音楽博物館論や音楽文化について考える。							ディスカッション レポート提出	
第13回	音楽文化と地域	音楽文化と地域の関係性について考える。							オンデマンド授業	
第14回	レポート発表（1）	レポートを発表する。							プレゼンテーション	
第15回	レポート発表（2）、まとめ	レポートを発表する。授業の総括。							プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	授業への参加度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）により総合的に評価する。									
課題等	毎回コメントカードを提出する。出た質問については次の時間にフィードバックする。									
事前事後学修	授業で取り扱う年代の出来事について、事前に予習すること。									
教材教科書参考書	【参考書】井上裕太『日本音楽博物館論』同成社、2021、ISBN:978-4-88621-858-2 参考書のため、購入しなくても授業に支障はありません。									
留意点	授業に積極的に参加し、発言すること。 第13回目はオンデマンド授業を行います。受講者は、指定された期間に、ネット上にアップされた授業動画を視聴し、授業で指示された課題およびコメントを提出してください。詳細は授業内に説明します。									

科目名	教養演習C		科目ナンバリング	L-GELS9-02.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50028		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える会話実用表現を中心に学ぶ。また、現代フランスを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「フランス事情」に関する短いプレゼンの時間も設定する予定。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	文法を正確に理解すること（CEFRのA2レベル）。また、フランス社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		発音の基礎					問題解決型学修		
第2回	国籍や職業をたずねる		主語人称代名詞、基本動詞					問題解決型学修		
第3回	様々な-er動詞		基本動詞、否定文					問題解決型学修		
第4回	好きなものをたずねる		名詞と定冠詞					問題解決型学修		
第5回	「どこで」「だれと」をたずねる		疑問詞、不定冠詞					問題解決型学修		
第6回	所有を表現する		形容詞					問題解決型学修		
第7回	様々な活動について話す		否定の復習					問題解決型学修		
第8回	食事について話す		部分冠詞					問題解決型学修		
第9回	よく行く場所について話す		前置詞、人称代名詞・強勢形					問題解決型学修		
第10回	習慣についてたずねる		代名動詞					問題解決型学修		
第11回	計画についてたずねる		近未来					問題解決型学修		
第12回	行きたい場所についてたずねる		命令形					問題解決型学修		
第13回	過去の出来事についてたずねる		複合過去					問題解決型学修		
第14回	一日の行動を話す		半過去					問題解決型学修		
第15回	まとめ		文法項目のまとめ					問題解決型学修		
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『Dis-moi tout! nouvelle édition』(Léna Giunta, Tomohiko Kiyooka, 白水社、本体2600円、ISBN978-4-560-06140-4)									
留意点	未習者は相当の努力が必要。なお、教科書は最新版を購入すること。									

科目名	教養演習D		科目ナンバリング	L-GELS9-03.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50029		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>異文化コミュニケーション概論：本科目では、主にコミュニケーション学の観点から、異文化コミュニケーションに関する基本的な概念や理論を取り上げていく。具体的には、文化、コミュニケーション、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応、言語と非言語などのテーマやマスメディアにおける異文化の語られ方などを考察していく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	異文化コミュニケーションの諸問題や基本的な概念・理論を学ぶことを目的とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	導入			異文化コミュニケーションとIntercultural Communication						
第2回	文化とは			文化の定義、冰山モデル、教科書1-19ページ						
第3回	コミュニケーションとは			コミュニケーションの定義とモデル、教科書19-36ページ						
第4回	自己とアイデンティティ			アイデンティティの定義と特徴、教科書第2章 ワークシート						
第5回	偏見とステレオタイプ			選択的知覚、ステレオタイプ、偏見、差別、教科書第3章						
第6回	言語コミュニケーション			低、高コンテクスト文化と言語、教科書第5章						
第7回	非言語コミュニケーション			非言語行動の種類と特徴、教科書第6章						
第8回	空間、時間と文化			Mタイム、Pタイム、対人距離、ハンドアウト						
第9回	異文化適応			カルチャーショック、U曲線、W曲線、DMISモデル、教科書第7章						
第10回	対人コミュニケーションにおける異文化			対人関係構築プロセスと異文化コミュニケーション、教科書第8章						
第11回	異文化コミュニケーション能力			異文化コミュニケーション能力の構成モデル、教科書第9章						
第12回	マスメディアにおける異文化			メディアにおける「異」の表象、オリエンタリズム、ハンドアウト						
第13回	異文化コミュニケーションの研究			異文化コミュニケーションの研究の歴史と特徴、教科書第10章						
第14回	批判的異文化コミュニケーション研究			批判的研究の目的と特徴、ハンドアウト						
第15回	期末試験、まとめ			試験準備、ハンドアウト						
評価方法及び評価基準	<p>授業参加度(ワークシート含)(20%)</p> <p>授業内、授業外課題(20%)</p> <p>レポート(30%)</p> <p>期末試験(30%)</p>									
課題等	上記参照									
事前事後学修	180分/週									
教材教科書参考書	<p>教科書：石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜井俊行・石黒武人、2013、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』、有斐閣。(24641281332)</p> <p>参考書：池田理知子、2010、『よくわかる異文化コミュニケーション』、ミネルヴァ書房。(9784623056095)</p>									
留意点	授業準備に時間をかけ、その準備をもとに積極的に授業参加することが求められる。									

科目名	教養演習 G		科目ナンバリング	L-GELS9-06. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50032		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>西洋文化の根源である古代ギリシア、その古典期（紀元前5世紀、4世紀）のギリシア語文法を学ぶ。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	できるだけ多くの文法項目を理解し、ギリシア語の文章を正確に日本語訳できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	字母、発音、音節		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第2回	現在直説法能動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第3回	第一変化の名詞		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第4回	未来直説法能動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第5回	未完了過去直説法能動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第6回	第二変化の名詞		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第7回	形容詞、前置詞		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第8回	アオリスト直説法能動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第9回	現在完了、過去完了直説法能動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第10回	指示代名詞、疑問代名詞、不定代名詞		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第11回	現在、未完了過去、未来の直説法中動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第12回	アオリスト、現在完了、過去完了、未来完了の直説法中動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第13回	人称代名詞、再帰代名詞、相互代名詞		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第14回	第二アオリスト直説法能動相と中動相		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
第15回	まとめ		左記項目を学ぶ						問題解決型学修	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎についての）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前 事後 学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『ギリシア語入門 新装版』（田中美知太郎、松平千秋 岩波書店 本体2200円 ISBN9784000225892）									
留意 点	初回時、教科書必ず持参すること。									

科目名	教養演習H		科目ナンバリング	L-GELS9-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50033		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	神戸 直樹			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 非言語コミュニケーション論：対人コミュニケーションにおいて、身振り、手振り、顔の表情、視線、周辺言語、身体接触、対人距離など、ことば以外の手段によって伝えられる非言語（ノンバーバル）メッセージが果たす役割は質、量ともに非常に大きい。本科目は、さまざまな非言語的伝達手段とコミュニケーションに関する理論・概念を考察し、それらを用い実際のコミュニケーションを観察、分析することで、辞書には載っていない非言語メッセージの意味を探っていく。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 非言語コミュニケーションに関する基本的な理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。 2) 実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			コミュニケーションの定義とモデル						
第2回	非言語コミュニケーションの機能と特徴			教科書1章、リーディング・レスポンス1提出						
第3回	外見と魅力			教科書2章						
第4回	ジェスチャーと動作			教科書3章、リーディング・レスポンス2提出						
第5回	顔の表情			教科書4章、観察メモ1提出						
第6回	視線行動			教科書5章、リーディング・レスポンス3提出						
第7回	音声行動・周辺言語			教科書6章、観察メモ2提出						
第8回	空間・対人距離			教科書7章、リーディング・レスポンス4提出						
第9回	身体接触			教科書8章						
第10回	異文化コミュニケーションと非言語メッセージ			教科書13章、リーディング・レスポンス5提出						
第11回	ジェンダーと非言語コミュニケーション			教科書11章、観察メモ3提出						
第12回	人間関係における非言語コミュニケーション			ハンドアウト、リーディング・レスポンス6提出						
第13回	説得と非言語コミュニケーション			ハンドアウト、分析レポート提出						
第14回	オンラインの非言語コミュニケーション			ハンドアウト、リーディング・レスポンス7提出						
第15回	期末試験、まとめ			試験準備、授業の振り返り						
評価方法及び評価基準	<p>授業参加度(ワークシート含)(20%) リーディング・レスポンス(15%) 観察メモ(15%) 期末試験(25%) 分析レポート(25%)</p>									
課題等	上記参照									
事前事後学修	180分/週									
教材教科書参考書	教科書：V.P. リッチモンド、J.C. マクロスキー、2006、『非言語行動の心理学：対人関係とコミュニケーション理解のために』、北大路書房。(978-4762824906)									
留意点	授業準備に時間をかけ、その準備をもとに積極的に授業参加することが求められる。									

科目名	教養演習 I		科目ナンバリング	L-GELS9-08. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50034		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	【授業の主旨】									
	<p>文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現、聞き取りを中心に学ぶ。また、現代ドイツを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	文法を正確に理解すること。また、ドイツ社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	ガイダンス、発音練習			綴りと発音を理解する				問題解決型学修		
第2回	人称代名詞、動詞の現在人称変化			動詞の変化を学ぶ				問題解決型学修		
第3回	名詞と性、定冠詞、不定冠詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第4回	人称代名詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第5回	前置詞、否定表現			kein, nicht の用法				問題解決型学修		
第6回	形容詞			格変化を学ぶ				問題解決型学修		
第7回	従属接続詞			従属接続詞を用いた文を学ぶ				問題解決型学修		
第8回	話法の助動詞			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第9回	動詞の3基本形			不定詞、過去基本形、過去分詞を学ぶ				問題解決型学修		
第10回	現在完了			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第11回	分離動詞、非分離動詞、再帰動詞			用法を学ぶ				問題解決型学修		
第12回	関係代名詞			関係代名詞を用いた文を学ぶ				問題解決型学修		
第13回	受動文			種類と用法を学ぶ				問題解決型学修		
第14回	接続法			I 式、II 式の用法を学ぶ				問題解決型学修		
第15回	まとめ			全体のまとめ				問題解決型学修		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度 (50%)、小テストおよび期末テスト (50%)。テスト (文法の基礎について) の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前 事後 学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『Alternativ Deutsche Grammatik als zweite Fremdsprache』(Michio Kamitake, 郁文堂、CD付2600円、ISBN9784261012606)									
留意 点	未習者は相当の努力が必要。									

科目名	教養演習 J		科目ナンバリング	L-GELS9-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50035		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 英国の小説家ディケンズ(1812-1870)の有名な童話“A Christmas Carol”を原書と翻訳で読む。平易な表現に含まれる普遍的なものを探りあてる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	英語表現に着目しながら、作品世界を味わう。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		授業の進め方、課題のやり方について説明する							
第2回	第一節	マーリーの幽霊	講読、問題提起						課題解決型学修	
第3回	第一節	マーリーの幽霊②	講読、問題提起						課題解決型学修	
第4回	第一節	マーリーの幽霊③	講読、問題提起						課題解決型学修	
第5回	第二節	第一の精霊	講読、問題提起						課題解決型学修	
第6回	第二節	第一の精霊②	講読、問題提起						課題解決型学修	
第7回	第三節	第二の精霊	講読、問題提起						課題解決型学修	
第8回	第三節	第二の精霊②	講読、問題提起						課題解決型学修	
第9回	第三節	第二の精霊③	講読、問題提起						課題解決型学修	
第10回	第三節	第二の精霊④	講読、問題提起						課題解決型学修	
第11回	第四節	最後の精霊	講読、問題提起						課題解決型学修	
第12回	第四節	最後の精霊②	講読、問題提起						課題解決型学修	
第13回	第四節	最後の精霊③	講読、問題提起						課題解決型学修	
第14回	第五節	結末	講読、問題提起						課題解決型学修	
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価 方法 及び 評価 基準	各種課題(50%)と期末試験(50%)。後者の評価はおもに、①説得力、②独自性、③表現力によって行う。									
課題 等	授業時間以外の下調べに多くの時間と工夫が必要。									
事前 事後 学修	3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『クリスマス・キャロル』（ディケンズ著、越前敏弥訳、角川文庫本体500円 ISBN978-4-04-109237-8） 原文はコピーを配布。									
留意 点	グループディスカッション等も実施予定。									

科目名	教養演習 K (留学生のための日本語) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-10. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50036		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>来日する留学生の日本語能力向上を目指した授業のため、個別に授業計画を行うが、基本的にはアカデミックな文章の【読解能力を伸ばす】ことを目標とし、授業を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	来日時点の日本語レベルよりも1つ2つ上のレベルを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	オリエンテーション			授業の進め方・日本語学習のメタ認知						
第2回	10代のうちに考えておくこと			文章にサブタイトルを付ける						
第3回	「草は生きているか」疑うことが命を知る入口			科学的に明らかにされている事柄を3つ抜き出す						
第4回	仕事選び			文章を要約する						
第5回	障害と私			気遣いと適度な距離感について理解する						
第6回	フィンランドの学校で			学校教育の国別比較						
第7回	マニュアル社会			筆者の独特な表現が何を意味するものが何かを考える						
第8回	遺伝子検査			現状・良い点・悪い点・自分の意見の順番に文章を構成する。						
第9回	コミュニケーションの日本語			意見が違う人とのコミュニケーションの取り方						
第10回	丸裸の山で			環境に関する文章を読み、筆者の主張を理解する。						
第11回	発表①			前回のテーマを受け、特定の食料品を生産することで生活環境にどのような影響があるのかを調べ、発表する。				ディスカッション		
第12回	何かを選択すればゴールに近づく			文章構成を理解し、段落ごとの要旨をまとめる。						
第13回	発表②			前回のテーマを受け、人生の選択に関して自分の経験を振り返り、話し合う。				ディスカッション		
第14回	とても大事な水の話			これまで培った能力を用いて復習						
第15回	見通す力			これまで培った能力を用いて復習						
評価方法及び評価基準	<p>1. 授業ごとに用意された問題を解き、教員に提出。全問題に答え提出すれば、1回の授業につき6.6ポイント。</p> <p>2. 発表ごとに設定された目標の到達度によって総合的評価を行う。1回の発表につき満点6.6ポイントから減点方式で評価する。</p>									
課題等	上記に記載があるので省略する。									
事前事後学修	語彙の意味は最低限調べておく									
教材教科書参考書	「話す書くにつながる日本語読解」アルク ISBN 978-4-7574-2685-6									
留意点	なし									

科目名	教養演習Ⅰ (留学生のための日本語) 【留学生のみ】		科目ナンバリング	L-GELS9-11.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50037		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	【授業の主旨】									
	来日する留学生向けの授業のため、個別に授業計画を行う。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。									
到達目標	来日時点の日本語レベルよりも1つ2つ上のレベルを目指す。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	音楽と音の効果			形容詞の名詞化・わけがない・Vこと・Vこそ						
第2回	いい数字・悪い数字			NほどVない・Nからすると						
第3回	いい数字・悪い数字			Nからすると・疑問後疑問文より、～						
第4回	「面白い」日本			Vテ/N以来・普通形ということだ						
第5回	「面白い」日本			Vルまでもない・Nであろうと						
第6回	くしゃみ			Vタとたん・～だす(開始)						
第7回	くしゃみ			Nとともに(一緒に、同時に、伴って)						
第8回	私の町			Vつつある・Nを中心に・Vところに・Vところで						
第9回	私の町			意志動詞・無意志動詞・Nらしい・Nらしさ・Nらしく						
第10回	この日に食べなきゃ意味がない			Nにとって・～にとって・～らしい						
第11回	この日に食べなきゃ意味がない			～としたら・Vル/Vナイないことになる・グラフの言葉						
第12回	お相撲さんの世界			Nだらけ・Vナイないと・～に加えて						
第13回	お相撲さんの世界			Vル/Vナイないように・Vてくる・「接続詞・副詞」の整理						
第14回	第一印象			～にすぎない・Nさえ～ば/～なら・「さえ・しか・こそ」の整理						
第15回	第一印象			～というものではない・Vマスかねない・～ものの						
評価方法及び評価基準	1. 授業ごとに用意された問題を解き、教員に提出。全問題に答え提出すれば、1回の授業につき6.6ポイント。 2. 発表ごとに設定された目標の到達度によって総合的評価を行う。1回の発表につき満点6.6ポイントから減点方式で評価する。									
課題等	上記に記載があるので省略する。									
事前事後学修	語彙の意味は最低限調べておく									
教材教科書参考書	平井悦子・三輪さち子(2020)「中級を学ぼう」スリーエネットワーク ISBN 978-4-88319-788-0 C0081									
留意点	特になし									

科目名	教養演習M		科目ナンバリング	L-GELS9-12.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50038		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「心」について科学的にアプローチするには、調査などを行う前にどのような理論や仮説が立てられ研究が行われてきたかを知っておく必要がある。この授業では心理学論文にアクセスし、読み解いていくと技術や態度を身につける。 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①どのような心理学の論文があるかを調べ、アクセスできるようになる。 ②心理学の論文の基本的な構成や、方法などについての知識を得る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			授業全体の進め方、留意点						
第2回	映像に現れる心（1）			心にどのようにアプローチすればよいのか、映像作品から考える。						
第3回	映像に現れる心（2）			心にどのようにアプローチすればよいのか、映像作品から考える。						
第4回	心理学論文に関する基礎知識			心理学論文が掲載されている雑誌やアクセス方法を紹介する。						
第5回	心理学論文を読む（1）			教員の解説のもと、選定された心理学の論文を読んでいく。					ディスカッション	
第6回	心理学論文を読む（2）			教員の解説のもと、選定された心理学の論文を読んでいく。					ディスカッション	
第7回	心理学の論文を調べる（1）			自らの関心に基づき心理学の論文を調べていく。					PBL	
第8回	心理学の論文を調べる（2）			自らの関心に基づき心理学の論文を調べていく。					PBL	
第9回	選んだ心理学の論文を読む（1）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第10回	選んだ心理学の論文を読む（2）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第11回	選んだ心理学の論文を読む（3）			各自が選んだ論文を教員指導のもと読んでいく。					ディスカッション	
第12回	研究の再検討（1）			可能な範囲で論文にかかっている調査をアレンジして再調査して					PBL	
第13回	研究の再検討（2）			可能な範囲で論文にかかっている調査をアレンジして再調査して					PBL	
第14回	論文内容の発表（1）			各自が呼んだ論文の内容や再調査をスライド資料にまとめ発表する					PBL	
第15回	論文内容の発表（2）			各自が呼んだ論文の内容や再調査をスライド資料にまとめ発表する					PBL	
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題等	論文のリサーチや読解など、順次作業が生じる。授業内で指示するので確実にこなすこと。									
事前事後学修	事前の調査や課題は毎回の授業内で指示する。									
教材教科書参考書	必要な資料は適宜配布する。									
留意点	教養演習Mは後期の教養演習Nと連続した内容になっているので、そのつもりで受講すること。									

科目名	教養演習N		科目ナンバリング	L-GELS9-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50039		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	山本 尚樹			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】 「心」について科学的にアプローチするには、先行研究を踏まえつつ各自が問いを立て、研究を計画、実行しての成果が先行研究に対してどのような意味を持つのかを考える必要がある。この授業ではそうした科学的態度の基礎を体験してみる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<p>①先行研究を読み解いたうえで問いを設定できるようにする。 ②自らが立てた問いをもとに研究を計画、実行できるようにする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	ガイダンス			授業全体の進め方、留意点						
第2回	問いを立てる（1）			先行研究を踏まえたうえで研究の問いを立てる。					PBL	
第3回	問いを立てる（2）			先行研究を踏まえたうえで研究の問いを立てる。					PBL	
第4回	研究を計画する（1）			問いに対して、実行可能な範囲で研究を計画する。また、実行可能な調査を試行してみる。					PBL	
第5回	研究を計画する（2）			問いに対して、実行可能な範囲で研究を計画する。また、実行可能な調査を試行してみる。					PBL	
第6回	研究の実行（1）			計画に基づき調査などの研究を実行する。					PBL	
第7回	研究の実行（2）			計画に基づき調査などの研究を実行する。					PBL	
第8回	結果の分析と検証（1）			実行した研究の結果を分析し、研究計画の妥当性を検証する。					PBL	
第9回	結果の分析と検証（2）			実行した研究の結果を分析し、研究計画の妥当性を検証する。					PBL	
第10回	研究の再計画と実行（1）			研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL	
第11回	研究の再計画と実行（2）			研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL	
第12回	研究の再計画と実行（3）			研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL	
第13回	研究の再計画と実行（4）			研究計画を見直し、対象を広げる、方法を変えるなどして研究を行う。					PBL	
第14回	分析結果の発表（1）			研究の問い、方法、結果、考察をスライド資料にまとめ発表する。					PBL	
第15回	分析結果の発表（2）			研究の問い、方法、結果、考察をスライド資料にまとめ発表する。					PBL	
評価方法及び評価基準	平常点（授業の参加態度、課題への取り組み）40%、課題提出物60%									
課題等	研究計画の立案、実行、分析など順次作業が生じるので確実にこなすこと。									
事前事後学修	研究の準備、分析など授業前、授業後に作業が生じる。									
教材教科書参考書	必要な資料は適宜配布する。									
留意点	研究計画の立案などは基本的に個人で行うことを考えているが、一人では実行不可能な部分もあるのでその際には互いに協力すること。									

科目名	教養演習Ⅰ (日本語教育概論A)		科目ナンバリング	L-GELS9-14. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50040		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観しつつ、本学で履修する専門分野の全体像を把握する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。 日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	日本語教育概論Ⅰ			1. 日本語教師とは 2. 増加する日本語学習者（国内編）						
第2回	日本語教育概論Ⅱ			3. 増加する日本語学習者（海外編） 日本語教育実施国10か国の状況						
第3回	国際理解Ⅰ			【小テスト① 日本語教育概論】 1. 日本社会の成立と周辺各国との交流 2. 文化の種類						
第4回	国際理解Ⅱ			3. 多文化社会と教育						
第5回	国際理解Ⅲ			4. 「日本事情」では何を教えるか					オンデマンド授業	
第6回	言語と社会Ⅰ			【小テスト② 国際理解】 1. 言語変異 2. 言語行動						
第7回	言語と社会Ⅱ			3. 言語接触 4. 言語変化 5. 言語計画						
第8回	言語と心理Ⅰ			【小テスト③：言語と社会】1. 異文化接触と心理 2. 状況的学習論						
第9回	言語と心理Ⅱ			3. 認知心理学と学習 4. 学習ストラテジー 5. 学習者タイプ						
第10回	言語学概論Ⅰ			【小テスト④ 言語と心理】1. 一般言語学 2. 形態論 3. 統語論						
第11回	言語学概論Ⅱ			4. 意味論 5. 語用論						
第12回	世界の言語Ⅰ			【小テスト⑤ 言語学概論】 1. 起源別分類 2. 言語類型論						
第13回	世界の言語Ⅱ			3. 対照言語学（統語・テンス/アスペクト・語彙/表現）						
第14回	応用言語学Ⅰ			【小テスト⑥ 世界の言語】1. 第二言語習得における習慣形成と生得論 2. 言語能力について考え方の変遷						
第15回	応用言語学Ⅱ			3. モニターモデルと第二言語習得理論 4. バイリンガリズム						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>時間にして15分程度の小テスト①～⑦の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑦：応用言語学】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題 等	特になし									
事前 事後 学修	小テストを行うため、復習を要する。									
教材 教科書 参考書	プリントを用意する。									
留意 点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。 日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習P (日本語教育概論B)		科目ナンバリング	L-GELS9-15.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50041		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	志喜屋 カロリーナ			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>日本語を外国人に教える際に知っておくべき事柄について概観する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を体系的に教えるために必要な基礎的知識を身につける。 日本語教育能力検定試験合格に向けた自分の得意分野の発見。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	語彙・意味		1. 語彙論 2. 語種 3. 待遇語 4. 語構成 5. 擬音語・擬態語 6. 意味論							
第2回	文字・表記		1. 日本語の表記法 2. 漢字・平仮名・カタカナ・ローマ字							
第3回	音声Ⅰ		【小テスト⑧ 語彙意味・文字表記】 1. 音声概論 IPA国際音声記号による五十音図 2. 単音—子音—							
第4回	音声Ⅱ		3. 調音点 4. 調音法							
第5回	音声Ⅲ		5. 単音—母音— 6. 音素と異音							
第6回	音声Ⅳ		7. 音韻レベル 8. アクセント・イントネーション・プロミネンス							
第7回	文法（品詞）Ⅰ		【小テスト⑨ 音声】 1. 品詞論と構文論 2. 名詞 3. 動詞							
第8回	文法（品詞）Ⅱ		3. 動詞							
第9回	文法（品詞）Ⅲ		4. 形容詞 5. 副詞 6. 連体詞 7. 接続詞 8. 感動詞							
第10回	文法（品詞）Ⅳ		9. 助詞							
第11回	文法（構文）Ⅰ		【小テスト⑩ 品詞】 1. 文の種類							
第12回	文法（構文）Ⅱ		2. ヴォイス（態） 3. アスペクト（相）							
第13回	文法（構文）Ⅲ		4. テンス（時制） 5. ムード（モダリティ・法・陳述） 6. 授受表現							
第14回	文法（構文）Ⅳ		7. 連体修飾節 8. 従属節							
第15回	文法（構文）Ⅴ		前回の続き→条件形 9. 格助詞							
評価方法及び評価基準	<p>時間にして15分程度の小テスト⑧～⑩の平均点を成績とする。</p> <p>公欠の場合を除き、小テストの受験は授業出席者のみとする。</p> <p>【小テスト⑩ 構文】は、第16回目に該当する日付に実施する。</p>									
課題等	特になし									
事前事後学修	小テストを行うため、復習を要する。									
教材教科書参考書	プリントを用意する。									
留意点	配布プリントは全てTeams上で配布します。小テスト実施後、問題及び回答用紙は回収します。日本語教師にならない人も歓迎します。									

科目名	教養演習Q		科目ナンバリング	L-GELS9-16.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	G50042		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	(コンソーシアム)			授業 形態	演習	オムニバス	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの7に関連し、カリキュラムポリシーの7に関連している。</p>									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教科書参考書										
留意点										